

# まんが日本史比較

-平安時代-

42期生

## I テーマ設定の理由

ぼくははじめは、少しちがう研究をしたかったのだけど、指導教官の西田先生に日本の歴史の比較をなさいとすすめられ、やりやすそうだったし、前の先輩たちのアウトラインをみてもおもしろそうだったのでやってみようと思いました。

## II 研究方法

比較

- ① 表紙(人物、背景)
- ② 量(ページ数)
- ③ 絵がら
- ④ 一つの内容の各社のとりあつかい方のちがい
- ⑤ まとめ(①~④の比較の結果から各社の特徴をみつけ、自分なりにどの社の本が一番読みやすいかを考える)

## III 研究内容

まんが日本史というものは、「集英社」、「学研」、「大月書店」、「小学館」の四社から発行されている。この研究では平安時代にスポットをあててみた。

### 1 表紙

各社の表紙に使われている人物と背景についてみる。

#### (1) 人物

▼表1 各社の表紙の人物

集英社	学研	大月書店	小学館4	小学館5	小学館6
菅原道真	彰子	紫式部	菅原道真	白河法皇	源義経
藤原道長	恒武天皇	平将門	空海	藤原道長	平時子
紫式部	空海		最澄	紫式部	安徳天皇
	平清盛		坂上田村麻呂	平将門	源頼朝
			恒武天皇		平清盛

注：小学館4、5、6というのは小学館は3冊使って平安時代をとりあつかっている。

つかわれているのが多い人物

- ① 紫式部 3社
- ② 菅原道真 2社
- ③ 藤原道長 2社
- ④ 恒武天皇 2社
- ⑤ 空海 2社
- ⑥ 平清盛 2社
- ⑦ 平将門 2社

人物別にみていると左のような結果がでた。平安時代といふとはなやかな貴族文化というイメージが強いから、紫式部や男性貴族を多くつかってはなやかさをだしているのだろう。

また一方では平安時代は武士がおこった時代でもあるので平安時代に活躍した平清盛や平将門をつかっている。

### (2) 背景

集英社と学研は背景に春の桜のピンクを使ってはなやかな貴族文化をあらわしているのに対し、小学館は秋の紅葉と夕焼けを使い、ピリッとした一味ちがった形で貴族文化を表しているのが対照的。

また、大月書店と小学館は広大な海を背景にして武士の時代をあらわそうとしている。

人物と背景、総合的に考えてみると、平安時代前期のはなやかな貴族時代と平安時代後期の武士のおこりを2本の柱にして、この柱を中心に肉づけされていることがわかった。

### 2 量

四社の総合計のページ数と分野別のページ数を比較する。

#### (1) 総合計

結果をみると、3巻全部使っている小学館が417ページとだんとつに多い。これは平安時代のとりあつかいかたが最も多いからだろう。学研と集英社はどちらも1冊全部使っている。小学館に比べて、内容は手うすかもしれないがコンパクトにまとめてあって1冊で平安時代の

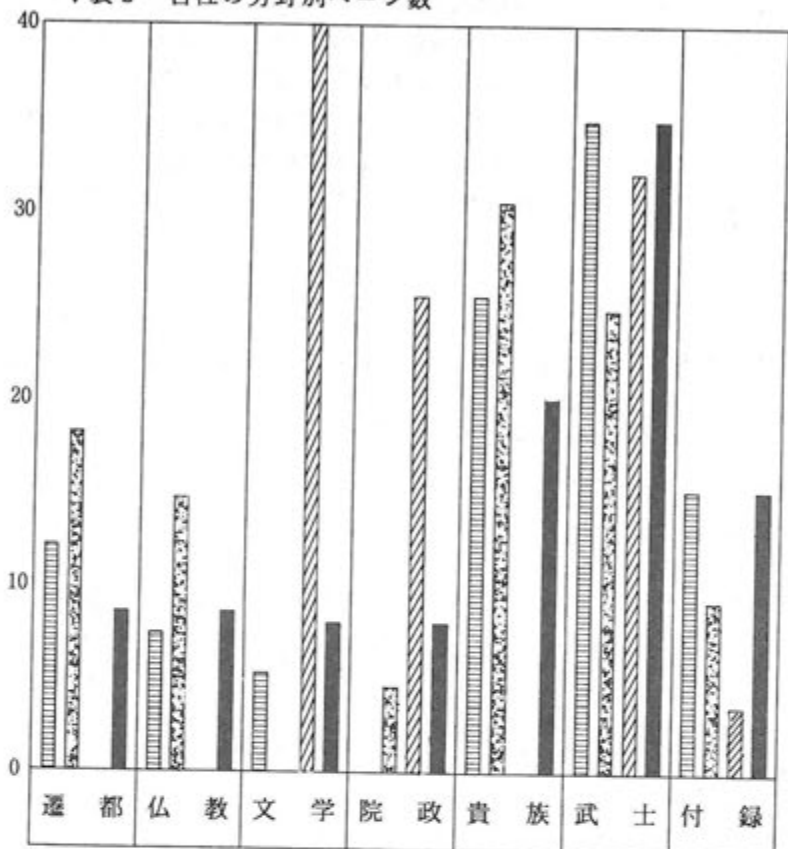
ことが全部わかるという利点がある。

大月書店は1巻の1/4を使っていて、コンパクトな面は集英社と学研と同じだが平安時代をとびとびにあらすじがなくあらわしているようで、1冊で全部わかるということはないようである。

結論としては、内容を詳しく知りたい内容重視型の人には小学館の本があっいて、要所をのぞきたい人はコンパクトな学研、集英社、(大月書店)を買ったほうが良いと思う。

(2) 分野別

▼表2 各社の分野別ページ数



集英社  
学研  
大月書店  
小学館

・この表は各本の分野別のページをパーセンテージ化したものである。

・線がないのはその分野をとりあつかっていないことを示す。

〈考察〉

○会社別に見る

- 集英社** ・貴族のとりあつかい方がすくなくて、武士のとりあつかい方を多くしている。  
 ・文学のとりあつかい方が、異様に少ない。
- 学研** ・武士をとりあつかっていない分、遷都、仏教、貴族のとりあつかいが多い。
- 大月書店** ・三分野しかとりあつかっていない分、それぞれのパーセンテージが高い。
- 小学館** ・集英社の傾向によく似た感じのとりあつかい方である。  
 ・付録が多い。

○分野別に見る

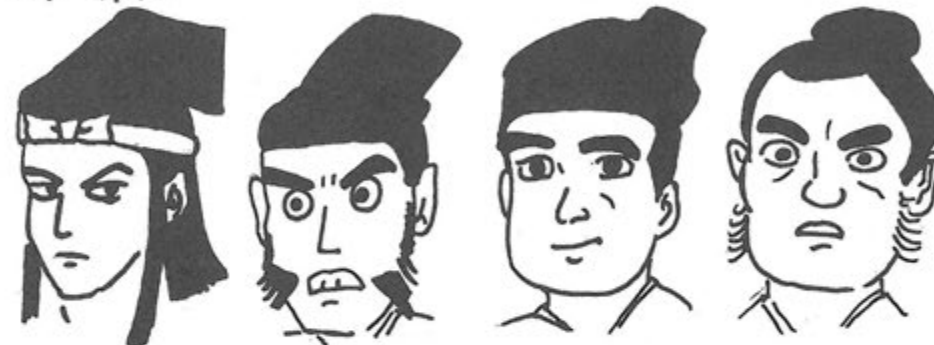
- ・全体的に武士、貴族を多くとりあつかっている。
- ・院政、文学は大月書店だけ多いが、そんなにしっかりととりあつかっていない。
- ・付録が思った以上に多い。

3 絵がら

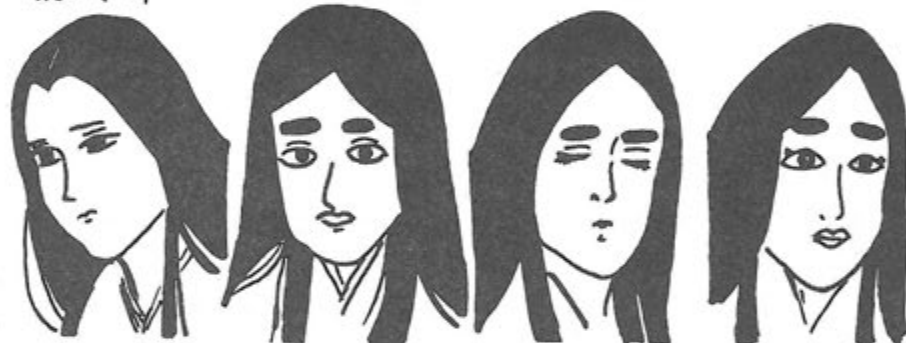
各社の同一人物のかきかたのちがいを比較する。

集英社 学研 大月書店 小学館

・平将門



・紫式部



▲ 各社の絵がら

○絵がらの特徴

- 集英社** ・上品な感じで貴族っぽい絵である。  
 ・まろやかな線でりりしさもあるが、貴族は区別がつきにくい。
- 学研** ・勇ましい感じがあって男性っぽい絵である。  
 ・表情がきつく、人々の区別はつきやすいが、こまわりが小さい。
- 大月書店** ・表情がひかえめで、男性っぽい絵である。  
 ・絵が雑な面もあって、表情が少し乏しい。
- 小学館** ・表情が豊かで個性的な絵である。  
 ・絵が細かく、見ためがよくて、こまわりも大きい。

4 一つの内容の各社のとりあつかい方のちがいを

平安時代にはいろいろな事件があった。もちろんまんが日本史の中にもそれらの事件をとりあつかっている。しかしそれらの事件の内容が会社ごとにちがっているのではないかと考え、調べてみた。なお大月書店はストーリー性がないため、比較の対象とならなかった。

・長岡京での藤原種継の殺され方

- 集英社** 胸を前から2本の矢でさされて殺されている。  
**学研** 首を1本の矢でさされ殺されている。  
**小学館** 前後からそれぞれ1本ずつの矢でさされて殺されている。

・板上田村麻呂の蝦夷攻めの際の蝦夷の対応

- 集英社** アテルイとモレが中心になって反抗するが、降伏する。  
**学研** 板上田村麻呂がきたら勝ち目が無いといってすぐ降伏する。  
**小学館** アテルイが中心となって戦うが、血をながしたくないと和平をもうしこむ。

・応天門の変の犯人

- 集英社** 大宅鷹取の証言で大納言善男が逮捕された。  
**学研** 源信と伴善男を犯人候補としたが、藤原氏にとってじゃまな伴氏を犯人とした。  
**小学館** 伴善男の証言で犯人は源信となるが、庶民の証言によって犯人は源善男となる。

・遣唐使廃止の理由

- 集英社** 唐は戦乱つづきで国の力がおとろえ、唐から学ものがないから。  
**学研** 唐の国が内乱でつぶれるため国費のむだだから。  
**小学館** 唐の国内も乱れているし、航海も危険だし、朝廷の財政も苦しいから。

5 まとめ

それぞれの本についての特徴をまとめる。

- 集英社** 一冊で平安時代のことがわかる。総ページ数は146ページ。武士のおこりを中心としたとりあつかい方。絵がらは上品な感じで貴族っぽい絵である。  
**学研** 集英社と同じく一冊で平安時代のことがわかる。総ページは138ページ。遷都、仏教、貴族を多くとりあつかっている。絵がらは勇ましい感じの男性っぽい絵である。  
**大月書店** 上の二社と同じく一冊であるがストーリー性がない。総合計は115ページで奈良時代を少しかねている。三分野しかとりあつかっていない。絵がらは表情がひかえめである。  
**小学館** 平安時代に三冊使っていて一番内容がこい。総ページ数は417ページとだんとつに多い。集英社と同じで武士のおこりを中心にしたとりあつかい方である。小学館の絵がらが一番個性的で見やすかった。

IV 結論

どの会社の本が一番わかりやすいかということ結論としてだすつもりであったが、比較してみて、人の好みもあると思うし、それぞれの会社が一つ一つちがった特徴をもつまが日本史をだしているため、どれが一番いいときめつけることは非常に難しいことだと思う。

自分としては、絵が一番個性的で、量が一番多く、好感もてる小学館の日本史が一番読みやすいのではないと思うが、これはあくまでぼくの考えであって前のページのまとめで書いた各社の特徴を参考にして、自分の好みにあったまんが日本史を買ってもらえばいいのではないと思う。

V 総括

指導教官の西田先生にすすめられてやった研究だったが、やりやすかったし、昨年に比べてしっかりとできたと思う。しかし、計画どおりにいかず、後のほうにつめてやってしまった。また他にも「宣伝力と売りあげ高」「ストーリー」などいろいろ調べたいことがあったのにできなかった。これらの失敗をもとにして、来年は今年にまさるような研究をしたい。

VI 参考文献

- ・小学館版・学習まんが 少女少女日本の歴史4 平安京の人びと
- ・小学館版・学習まんが 少女少女日本の歴史5 貴族のさかえ
- ・小学館版・学習まんが 少女少女日本の歴史6 源平の戦い
- ・学研まんが・平安時代・日本の歴史4 栄える貴族
- ・集英社版・学習まんが・日本の歴史4 =平安時代=
- ・大月書店版・まんが日本の歴史3 古代の人々 ・奈良・平安